

2024年度以前入学生対象 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、教育学部教育学科では、「教員養成を主たる目的とする」学部・学科として、教員としての豊かな人間性と高い実践力を養成することを目的としてカリキュラムを編成している。その際、「こども保育専攻」「初等中等教育専攻」「特別支援教育専攻」それぞれの独自性を大切にするとともに、教育、学校、乳幼児・児童・生徒、家庭や社会に関する基礎的・基本的な知識・技能、考え方については、教育学部の学生全員が共通して履修できるように編成している。

2. カリキュラムの構成

1)豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていくため、「選択科目」のなかに「キャリア/教職」領域を設置している。

2)専門教育科目としては、「こども保育専攻」「初等中等教育専攻」「特別支援教育専攻」それぞれの独自性を大切に、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」を配置するとともに、教育学部全体に共通する基礎的・基本的な知識・技能、考え方の形成につながる科目を「専門共通科目」として1年次に配当している。2年次以降には、それぞれの専攻に必要とされる専門性と実践力を形成することを目的とした科目を配置した構成としている。各専攻、各免許状や資格に必要な科目を履修するだけでなく、視野と専門性を広げること、また学校園間の連携を担える人材の育成を図るため、多様な選択科目の履修を可能としているのも編成上の特徴である。

3. 教育内容・方法

1)報恩感謝の心と幅広い教養

1. 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持てる学生を育てるために、「宗教学」と「いのちを共に考える」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。

II.人間性の育成ならびに教師として必要な幅広い教養を身につけるために、共通教育科目、外国語科目を中心に多様な設置科目を1年次から配当している。また、大学で学ぶ意義を明確にし、大学における学びの基礎を身につける「新入生セミナー」を必修として提供している。さらに、幅広い教養を身につけ、多面的・多角的に思考する能力、データを読み解く知識、仕事や働く意義を考え抜く力を養成するために、「コンピュータ技術基礎」や「外国語科目」、「キャリア概論」も必修として設定している。また、共通教育科目については、人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・キャリア科目・教職科目・保健体育科目の6領域から選択して履修する。

2)専門的な知識・技能

教員に必要な資質の獲得をめざして、「教科に関する科目」「教職に関する科目」を中心に1年次から4年次まで、学習の積み重ねができるように編成している。その際、「教科に関する科目」で習得した知識・技能を「教職に関する科目」につなげることができる学年配当としている。それに加えて、免許状必修科目以外の多様な専門科目を設置し、専門的な知識・技能の幅を広げ、深めるとともに、他免許状や他専攻関係の設置科目も受講可能にし、各学校園の独自性や学校園間の連携についても学ぶことができる編成としている。

3)問題解決能力

学校園に起こっている現代的な課題に焦点を当てて学ぶ科目を3年次以降に配当し、個別学習とグループワークを組み合わせ、調査、発表、討論、まとめなどの学習を行い、課題探究から問題解決に至る筋道とその方法を獲得することを目的とした編成を行っている。

4)自律的・主体的・共感的態度

少人数でのゼミナールを1年次から4年次まで設置し、学生自身による進行、発表・討論の機会での他者の意見を尊重した話し合いなどの経験を通して、教員や学生同士がともに学び合い、互いの考えを認め合うことを重視した教育を行っている。その上で、自ら課題を設定し、その解決に向けて調査・研究を行うことを通して、諸問題に対して主体的・積極的に向かい合い、解決しようとする姿勢を形成することができる編成となっている。

5)実践力

教育実習を3年次に配当し、1～2年次の間にそれに必要な知識・技能の獲得が可能な編成を行い、教育実習後は、現在の教育課題と自身の教職における課題の両方を学ぶことができる科目を配当している。演習科目や体験的な学習において、教育現場への見学、教育課題の発見、指導・支援計画の作成、模擬授業、自己評価ならびに相互評価の機会を多く設置し、現在必要とされる実践力の育成をめざした編成をしている。

評価の方法

授業の参加の様子、発表、レポートなどで各授業での学習の到達を評価・確認するとともに、学期末の試験等によって学習の到達を評価・確認している。レポートや提出物、授業時間内の作品等、学生が作成したものについては、適宜フィードバックを行い、学生自身が達成を確認できるようにしている。最終的に、卒業研究において、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。